

早出幼稚園 平成30年度 学校評価結果

平成31年3月29日 早出幼稚園 学校関係者評価委員会

1. 30年度当初に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した重点項目

- (1) 家庭教育の向上のためにクラスだよりや園だよりを通じて、家庭で行うべきことを丁寧に伝える。親の子ども理解を深める。
- (2) 経験年数の少ない職員において新幼稚園教育要領の理解をすすめるとともに保育のねらいを通して子どもを育てている自信を身に付けるよう園内研修を行う。
- (3) 食育活動などインフルエンザの流行時には注意すべき。

2. 取り組み

- (1) クラスだよりにおいて、写真を活用しわかりやすい工夫が各担任においてなされた。また保育参加を促し、希望する保護者には参加をしてもらい子どもを多面的に見ることができるような機会を作った。
- (2) 東海北陸研修の開催が静岡であったため、できるだけ多くの教員が参加するとともに、経験年数の多い教員は免許更新によって学ぶことができた。
指導要録作成時には、あらためて「めざす10の姿」と子どもの姿を重ねることで理解がすすんだ。
- (3) インフルエンザ流行時には食育活動の日程を変更したり、子どももマスクを使用する。保護者に流行の傾向を伝え注意を促した。

3. 関係者評価委員会での意見

- (1) 30年度の夏の暑さ対策について、エアコンの設置が必要。使用する温度条件などを作って、適切に利用する方法を考えるべき。
- (2) 「めざす10の姿」が当園の教育課程とどのように関連をしているのか、就学後の活動にどのようにつながっていくかを整理し、保護者へ伝えることでこれからの子どもに求められる能力への理解を深める。
- (3) 虐待やいじめなど、社会的な課題についての専門研修が必要。

4. 今後取り組むべき課題と対策

課 題	対 策
(1)近年の異常気象に対応する健康管理を考え対策をとるべき。	エアコン、ミストシャワーなどの暑さ対策をするとともに行事の内容や時間を検証する。
(2)「めざす10の姿」が小学校以降の教育にどうつながっていくのか保護者に話すとともに新しい学力感についての理解を深めるべき。	浜私幼協会の共同研究「ことばでの伝えあい」を通して、子ども同士のコミュニケーションによる能力の向上を理解するとともに保護者への情報提供を行う。
(3)虐待やいじめなどの社会的なニュースを理解し、専門知識により理解を深めることが必要。	専門機関との連携を深め、正しく客観的に課題を理解することで保護者への説明力を高める。